

専門家意見聴取施設の概要と対応案について

令和3年7月8日
ファシリティマネジメント室

部	施設名	棟名	最小 Is値	建築構造		地震防災	対応案		備考
				阿波野 近畿大学教授	向井 神戸大学准教授	牧 京都大学防災研究所教授	ハード対策	ソフト対策	
1	県営住宅 売間団地	集会所	0.42	耐震壁がなく全体的に強度が低い。また、偏心率も規定値を超えている。水平ブレース及び鉄骨梁増設補強により集会室部分の屋根面荷重伝達能力を確保でき、またRC壁の増設補強などにより強度を高めることが出来るので良い。CB壁も危険であり、積み直し及び乾式壁への改修が必要。	RC壁増設や水平ブレース及び鉄骨梁増設補強は、大がかりな改修となりコストもかかる。集会室部分のCB壁をやり替えるだけで建物の弱点は小さくなる。築50年の建物であるため耐用年数も考慮して、応急対応としてCB壁のみの改修を行うとするのか本格的な耐震対応をするのか検討すると良い。	最寄りの出入口や掃き出し窓から避難する経路となっているので良い。		住民に避難経路を周知	
2	県営住宅 天理南団地	集会所	0.42	[本体部分(Pca造)] 単体であれば耐震性を有するが、増築部分と屋根仕上げ材が一体となっており、増築部分の重量を負担することとなるため、耐震性が低くなっている。エキスパンションジョイントを設けて切り離すことにより耐震性を確保できる。ただし、雨水が浸入しないよう配慮する必要がある。	[本体部分(Pca造)] 単体であれば耐震性を有するが、増築部分と屋根仕上げ材が一体となっており、増築部分の重量を負担することとなるため、耐震性が低くなっている。エキスパンションジョイントを設けて切り離すことにより耐震性を確保できる。ただし、雨水が浸入しないよう配慮する必要がある。	最寄りの出入口や掃き出し窓から避難する経路となっているので良い。	【耐震改修】 耐震改修工事を実施する 耐震改修工事完了までは、空き住戸改修のうえ仮集会所として使用	住民に避難経路を周知	
				[増築部分(S造)] 柱と梁の接合部に不備があるが、方杖補強により強度の向上が図られるので良い。	[増築部分(S造)] 柱と梁の接合部に不備があるが、方杖補強により強度の向上が図られるので良い。				
3	県営住宅 檀原ニュータウン団地	集会所	0.49	柱と梁の接合部がボルト接合であり耐力がないが、方杖補強により強度の向上が図られるので良い。	柱と梁の接合部がボルト接合であり耐力がないが、方杖補強により強度の向上が図られるので良い。	最寄りの出入口や掃き出し窓から避難する経路となっているので良い。		住民に避難経路を周知	
4	県営住宅 纏向団地	集会所	0.34	柱と梁の接合部について、日の字型断面の鉄骨柱にスチフナが無いことや溶接部分に不備があるなど、耐力が低い。X方向は壁ブレース補強、Y方向は方杖補強により強度が確保できるので良い。また、CB壁は地震時に倒壊の危険があるため、全撤去のうえ乾式壁へ改修するか、上部のみ撤去し乾式壁に改修するか検討すること。	柱と梁の接合部について、日の字型断面の鉄骨柱にスチフナが無いことや溶接部分に不備があるなど、耐力が低い。X方向は壁ブレース補強、Y方向は方杖補強により強度が確保できるので良い。また、CB壁は地震時に倒壊の危険があるため、全撤去のうえ乾式壁へ改修するか、上部のみ撤去し乾式壁に改修するか検討すること。	集会室からは直接外へ避難し、ホールを経由する経路はやめる。他の経路は最寄りの出入口や掃き出し窓から避難する経路となっているので良い。		住民に避難経路を周知	
5	独立行政法人 県立医科大学 附属病院	蔵書会館	0.30	コンクリート強度が低いことや、第2種構造要素があるため耐震性が低い。新設壁、増打壁の設置及び開口閉塞などによる補強でIs値0.6となるのであれば、応急補強を実施すると良い。	コンクリート強度が低いことや、第2種構造要素があるため耐震性が低い。新設壁、増打壁の設置及び開口閉塞などによる補強でIs値0.6となるのであれば、応急補強を実施すると良い。	第2種構造要素となる柱の横を通る避難は避けの方が良い。1階については玄関から、また2、3階については建物内部の階段から1階へ下り、玄関から外へ出る経路とする方が良い。	【応急】 新設壁、増打壁の設置(計8ヶ所)、開口閉塞(3ヶ所)、柱巻き補強(1ヶ所)及び立上り壁撤去(2ヶ所)の設計及び工事を実施	・専門家意見を踏まえ、避難経路の見直し ・避難経路の周知および掲示	新キャンパス継続整備(時期未定)